Forest通信 令和３年 1

No.383

林野庁　関東森林管理局　高尾森林ふれあい推進センター

皆様には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます

新年を迎えましても新型コロナウイルスの感染が気にかかるところですが　感染症拡大防止に対応しながら　高尾山の豊かな森林を教材とし森林の大きな機能や大切さを学べるイベント・森林教室の実施に努めてまいります

また　展示室・木工体験室（クラフト体験）も開館日をご確認のうえご利用いただけると幸いです

令和3年元旦
高尾森林ふれあい推進センター所長　池田　修

大平林道より望む富士山

巻頭Photo

高尾山の生きものたち

ウソ
（アトリ科）

ノドの周りのほのかな紅色が美しい。体長16cmほどの丸みのある身体で、頭と尾、翼の一部が黒く、背や腹は淡い灰色。オスのみ、頬と喉が淡桃色をしている。

春から夏は、亜高山や高山、北方などの寒冷地に生息し、主に針葉樹のある林で繁殖する。秋から冬は、低山や平地にやってきて、高尾付近でも見られる。「フィー、フィー」と口笛のような鳴き声で気がつくこともある。

食べ物は、昆虫も食べるが、草木の実や芽などが主。雑草と呼ばれる草の小さな種子やまだ閉じている木の芽なども食べる。ウソは、このような目立たない植物の恵みで、生きもの活動が止まったような冬を乗り越えている。

（写真・文　森林インストラクター　藤原 裕二）

公募イベント

リース作り

１２月１日（火）に公募イベント「リース作り」を実施しました。新型コロナ感染が拡大している中ではありましたが、感染防止対策に万全を期しての開催となりました。

リース作りは、当センターのイベントの中でも人気の高い企画で、参加者の中には「つるかご編みに落選しましたが、今回は当選しました！」という方もいらっしゃいました。

今回は、３密対策を踏まえ午前と午後の２部に分けて実施しました。つるで編んだリースのベースに、用意した松ぼっくり、クルミ、クサギの萼、木の実、ヒイラギの葉等から好みのものを選び、デコレーションしていきます。すべての素材が天然物ということもあって、参加者から「こういうのが理想的ね！」といったお褒めの言葉も頂きました。

スケジュールは十分余裕を持って計画したつもりでしたが、参加者のほとんどが時間をめいっぱい使っての作業となりました。閉会式の前には「鑑賞会」を実施し、それぞれの作品をじっくりと写メする時間も設けました。そして世界に一つだけのクリスマスリースを抱えて皆さん家路につきました。

今年度も盛会となった「リース作り」ですが、今後も林業家にとっては厄介者扱いの「つる」を利用して参加者の皆さんへ笑顔を届けたいと思います。（磯）

まずはベースのつる選び

「どれを使おうかしら」飾り選び

作成中

完成後、皆さんの作品を並べて鑑賞会

公募イベント
炭焼き体験と炭入れ作り

１２月１３日（日）に、公募イベント「炭焼き体験と炭入れ作り」を日影沢炭焼き施設において開催、１４名の方に参加いただきました。

まずは職員から炭のしくみや作り方を説明し、前もって準備しておいた伏焼き窯から炭を取り出す「窯出し」を体験。できあがった炭の状態を見ていただきました。

ここで２班に分かれ「伏焼き」を体験。窯内に敷木を並べたり炭となる竹を並べ、隙間に落ち葉を詰めて土をかぶせました。その後皆さん交替で団扇で熱風を窯内に送り込みながら、煙突から上る煙の色を見たり手で触れたりして熱分解過程を確認。

窯内部の温度が一定になったところで、フォレストサポートスタッフが行っている「ドラム缶窯」による炭焼きの様子を見学し、昼食までの間に「花炭」づくりを体験。マツボックリ、モミジバフウの実を空き缶に詰め込み、たき火の上に置いて昼食となりました。

午後は、つるを使った「炭入れ」作りを実施。事前に用意したつるを適当な長さに切るところから始め、職員の説明とともに一人一人つるを編んでいきます。経験者はてきぱきと、初めての方は四苦八苦しながら作り上げ、先ほど作成した花炭や午前中に窯出しした竹炭を、編み込んだ「炭入れ」に入れ完成です。作成の合間には、火起こしも体験していただきました。

予定時間の終盤、窯内部温度が安定した状況を示す煙突からの煙が透明になる様子を確認いただいたところで、皆さんの手で窯の焚き口と煙突の穴を土でふさぐ「窯じめ」を行い、本日のイベントは終了となりました。

参加した皆さんからは「炭が環境に優しく資源の有効活用につながる燃料であることが分かった」「時間を忘れて有意義な体験ができました」等の感想をいただきました。（高）

交替しながら窯内に竹を敷き詰めます

団扇を仰ぎ窯内部へ熱を送り込みます

変わっていく煙の色や温度を観察

つるを編んで「炭入れ」作り

森林教室
西東京市立　向台小学校

西東京市立向台小学校5年生の森林教室は、児童数が１５９名と多いため、２日に分けて開催することとなり、１２月７日（月）が３組と４組の80名、８日（火）が１組と２組の79名に分けての実施となりました。

７日は、渋滞により一時間ほど遅れての到着となりましたが、森林観察、森林学習、丸太切りと全てのプログラムを体験できました。

８日は、予定通り到着。森林観察、森林学習、丸太切りと全てのプログラムを体験できました。

久しぶりの野外活動にどの顔も笑顔。森林を歩きながら、人工林や天然林、治山ダムなどを間近に見たり、冬ならではの植物の実に触れたりしながらメモを取りつつ森林や林業について学習。普段は味わえない実物を見ながらの体験学習となりました。特に、スギの葉を燃やした時の香りはお気に入りのようで「もう1回燃やして～」の声も。

閉会式では、児童たちは寒さにも負けず「すごく楽しかった！」と顔を綻ばせて大きな声で感想を伝えてくれました。（岩）

幹（葉痕）に顔の模様がある！ふしぎ！

「緑のダム」って知っているかな？

森林教室
中野区立　中野本郷小学校

東京で今期一番の冷え込みとなり、高尾では氷点下２度と冷え込んだ１２月１５日（火）に、中野区立中野本郷小学校５年生５２名が森林教室に訪れました。中野区からの当センター森林教室参加第一号です。この寒さの中でも、今年初めての校外学習とあってか児童達は元気いっぱいで、中には半袖姿の児童もいてびっくり。

開校式後、早速開始した森林学習では、事前に森林・林業について学習してきたとのことで、案内するスタッフの質問に我先にと答えていました。午後に実施した森林学習でも、「高尾山の天然林の割合は」「林業で大変ことは」「林業での生きがいは」等々、次々に質問が出され、回答に四苦八苦していました。丸太切りでは、殆どの児童が上手にノコを使い、自分一人で切った輪切りを大事そうにリュックに仕舞っていました。校長先生から、「素晴らしい体験をさせていただき大変有意義な１日となりました」との言葉をいただき、また、児童達のびっくりするくらいの大きな声での「ありがとうございました」との挨拶に寒さも忘れ、今年最後の森林教室を終えることができました。（谷）

まるで探検だ！楽しい！

編集後記

本年は、新型コロナウイルスには退場いただき、普通にイベントが開催できる年になって欲しいと切に願っています。

フクジュソウ

Forest通信　NO.383
発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター
ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844　東京都八王子市高尾町2438-1
TEL 050-3160-6040　FAX 042-663-7229
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html